

## 巻 頭 言

## 尊敬される国際企業を目指して

For Global Company to Deserve Respected

取締役社長

井上博司

H. INOUE



21世紀幕開けの記念すべき年に創立80周年を迎えることができましたのも、これもひとえに顧客の皆様はじめ関係各位の皆様の暖かいご指導とご支援の賜物と厚くお礼申し上げます。

当社は1921年(大正10年)1月、大阪でベアリングの国産化を掲げて光洋精工社として発足以来本年で満80年を迎えました。この間、創業期まもなくの経済恐慌、それに続く世界的な動乱の時代、そして戦後の混乱期を経て外貨の保有額の天井の浅さに起因するたび重なる景気循環、高度経済成長後の変動相場制への移行とオイルショック、幾度もの貿易摩擦、再三の円高圧力、そしてバブル崩壊後の大不況と、この80年の道のりは決して平坦なものではありませんでした。とりわけ、昭和50年代の会社存亡の危機は筆舌に尽くし難いものでありました。

このように、幾多の困難を乗り越えて会社を今日の発展に導いてきたものは、それぞれの時代における先輩諸氏の不撓不屈の努力と、外部環境の変化に対する適切な対応があったればこそと思います。

そして、関係各方面の並々ならぬご支援と社内での真剣な取り組みによって、当社を含め、Koyoグループも80年の歴史の中で成長・発展を遂げて参りました。

現在、光洋精工を核として、国内に子会社、関連会社が40社、海外に53社を擁する大きな企業グループを形成するまでになりました。

80周年を迎えた今年は、グローバル競争の激化、情報化の進展、地球環境・エネルギー問題への対応と技術革新、顧客のニーズの変化など当社を取り巻く経営環境は、ますます厳しさを増してきております。

しかし、どのような厳しい時代の中にあっても、活力ある企業として成長を続けて行くことが必要です。当社が21世紀において永続的に発展を遂げ、世の中に貢献し続けるためには顧客から当社技術力を高くご評価頂くことが重要であり、これまで基礎技術力の強化と先行開発の取り組みに向け、総合技術研究所を設立致しましたが、今後もこの強化充実を進め、さらに基礎固めが必要と考えます。

これによりベアリング、ステアリングともに世界トップグループの地位を確保するとともに、Koyoグループの持てる技術開発力を最大限に発揮し、コア技術を生かし、ベアリング、ステアリングに続く第3、第4の柱の製品群を生み出していきたいと考えます。

これからも企業の社会的責任を十二分に発揮する企業価値を創造し、顧客・社員・株主・社会のいずれからも尊敬され、そして評価される企業をめざし、100周年に向けて新たなスタートを切りたいと思います。

どうかこれからも皆様方の変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申しあげまして、巻頭のご挨拶といたします。